



新体制スタートとなった第2回通常総会（8・5・24 於文化センター）

目次

積極的な社会活動への参画

長寿社会の責任自覚

会長 新生清藏

2

五代目会長として

会長 新生清藏

3

部門別活動方針

担当副会長

4

市老連への期待

千葉市長 松井 旭

6

市老連の来し方・行く末に寄せて

前会長 波多野透

7

特集

活力ある長寿社会にむけて

楽しいクラブづくりや社会参加

8

老人クラブ運営方針

17

特別寄稿

高齢者に期待

民族研究家 安藤 操

18

未来への文化の伝承を

民族研究家 安藤 操

18

追悼

福祉発展の至宝 翁会長を悼む

副会長 久力スイ

20

白井地区連会長布施章氏を悼む

若葉区老連会長 菊地 力

20

新役員一覧

事務局

5

上期の活動と下期の予定

事務局

21

会員のひろば

事務局

22

編集後記

事務局

24

積極的な社会活動への参画 長寿社会の責任自覚



▲第2回市老連グランドゴルフ大会
(8.9.6 於ゆうゆう広場)

▼市老連会長研修旅行 (8.10.1)



平成八年五月二十四日、十年にわたる波多野体制から新生体制に転換する第二回通常総会が開かれた。

法人化第一年の実質的なスタートでもある。

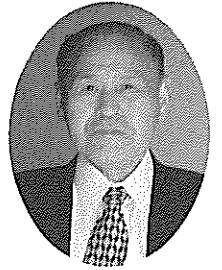
高齢化は少子化と相乗して予想以上に早い。

敬老の日の高齢者人口速報は一、八九九万人とある。実に国民六人に一人が六十五歳以上の高齢者で占められた。

自立しつつ、お互いに支えあい、たすけあい、ともに充実した人生をおくることのできる長寿社会の建設に向けて、如何にして積極的な社会活動への参画を実現するか——いま、われわれが直面している課題はここに集約されている。

方向は決った。

新しい体制は楽しくいきいきとしたクラブづくりのなかで、言葉だけでなく行動で結果を求めている。



五代目会長として

会長 新生 清藏

「ちば市老連」第五号が白露の節に、二万余の会員が期待し、発行をおよろこびしています。

編集から発行まで担当の皆様、御助言戴いた皆様方に感謝申し上げます。

千市老連が平成七年十月一日社団法人として認可され、政令都市の老人クラブとして新しい団体運営へと軌道に乗られる事は、二万余の会員のご理解とご協力の結果と思います。

会員が手をつなぎ、その温みが相互の明日を築く大きな原動力となって歴史を作っています。

千市老連が昭和三十七年五月発足し三十余年の歴史の中に先輩の大きな功績があり、それを引継ぐ仲間達の努力が実を結びし事となり「ちば市老連」第五号発行の大きな励みとなり、美しい大花が咲き、やがて実を結びし時に御苦労がしみじみと一人一人の会員の胸に刻む事と思います。第五代千葉市老人クラブ連合会会長として大役を、第二回通常総会に於て御推せん戴きまして、市ご当局始め会員皆様や事務局の皆様のご指導により、一日も早く会長とし愛されるよう努力して参ります。私は日頃仕事は日と時間によって馴れると共に自然にプロになれる。けれど人と人との交流を大切にしたいと念じています。「言葉は生きている」という諺があります。一寸した言葉から大きなミスを起こし相手の人格を損う事があります。二万余

の会員のリーダーとして仲間を大切にしたいと努めています。

勇退された波多野様、柴崎様は会長、副会長としその職務を大切し、企画運営については常に細心の注意をし進められました。御二人は「これからはこうなるであろう」と深い読みの中に職務を努めていられた先輩です。

先日機会があり、御二人様にお会いする事があり、対談中常に笑顔を忘れることなくすごしました。千市老連が益々大きく発展される事を会員とし御協力したいと励まされました。

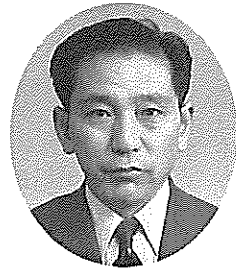
現在の運営に際し役員初め単ク会員の皆様まで、(ゆ)千市老連の大きな団体の家庭の中の家族とし、楽しさも、苦しさも共に味合い、明日を築く事に一生懸命に努力しています。

家族が全員が健康でいられる事は最高の幸せであります。二万余の会員が健康で与えられた行事に参加し交流を深めて行かれる事はこれからのクラブ活動とし基本です。そして組織を大切にし、友愛を活用して高齢者団体として、より大きくより愛される事が大きな目的です。二万余の会員が手をつなぎ楽しく行こうではありませんか。

「ちば市老連」も益々内容も豊かな情報の中に教養ある豊さの育成の広報誌とし発展して行く事を望み、発行のよろこびとします。

千と鶴 羽ばたく日々の 白露の季 千種

保健部の活動



総務・文化・保健担当

副会長 中島 久二

ゲートボール大会 回を重ねる十六回という歴史のせい、定着したという感じをうけた。コートはりの準備から、競技進行過程において、そつのない動作は、保健部の指導よろしきを得ると共に、ご苦勞も多いことを感じました。

昨年の優勝チームは、今年のネンリンピックに参加がきまっていますが、ご健闘を祈ります。

運動会 二十三回という長い歴史と人気にささえられ、市老連保健部の行事としては大きな存在でしたが、法人化に伴い諸般の事情により、今まで通りの運営がむずかしくなったので割愛になりました。このことを惜しむクラブもあれば、ホットしたという会員もあって、高齢者になると、個人差が大きいことをうかがわせます。

グラウンドゴルフ大会 年ごとに人気上昇し第2回大会は九月六日に、ゆうゆう広場で開催、天候に恵まれ、保健部、役員総力を挙げて準備ができ、予定どおり競技は順調に推移したことは、一回より二回という経験の度合いを感じた。コースのとりかた、出場チームとの関係等、若干の課題を残したものの、日の浅い、経験の少ない、高齢者の健康増進活動として上出来だったと思う。

担当部門の方針

教養・社会奉仕・広報担当

副会長 小 関 誠

老人クラブの普及、発展を図ることにより高齢者の生きがいや社会参加、健康保持等を推進し、福祉の向上に寄与することを基本とし、豊かな活力ある長寿社会の実現にむけて高齢者の経験、知識、技能を地域社会の中で積極的に活用する。誇りと生きがいを高めるため「生涯学習」の道標とする。

研修活動

老人クラブ指導者の養成及び研修

(ア) 一般基礎教養を深めるため学識経験者等の講義を中心とした各階層リーダーの参加

(イ) 全老連及び関東ブロックの研修会参加

(ウ) 地区別研修会の開催(六月、七月)二十九地区別に指導者対象の研修。約一、二〇〇名

(エ) 女性部県外研修会の開催 女性会員の指導者養成のため年一回(七月) 県外研修を行う。各

単位クラブ女性部長約二〇〇名

(オ) 指導者研修会の開催(十一月) 単位クラブ指導者約四〇〇名

(カ) 会長県外研修会の開催(十月) 単位クラブ会長約二〇〇名

(キ) 女性リーダー研修会 新しい老人クラブの担い手として、女性リーダーの養成を目的に研修会を実施。年二回(十二月、三月) 約一〇〇名

(ク) 全国健康福祉祭 一般高齢者及び老人クラブ会員より千葉市から約一三〇名が参加。市老連役員は全体シンポジウム参加。

(ケ) 社会奉仕活動

(ア) ゴミゼロ運動推進事業への参加 千葉市が実施する事業に参加し、各種地域団体と連携して社会奉仕活動を行う。五月二十日前後の日曜日

(イ) 清掃奉仕活動の実施 市老連の指導により、各老人クラブが公園、神社、佛閣、遺蹟等の清掃を行う。「九月二十日前後」の社会奉仕の日

(ウ) 高齢者相互支援啓発事業 「ねたきりゼロ運動」、「在宅福祉を



市老連への期待

千葉市長 松井 旭



千葉市老人クラブ連合会の皆様方には、日頃より、本市行政、とりわけ福祉行政の推進に多大なご理解・ご協力をいただいておりますこと、誠にありがたく、心から敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて、我が国は、二十一世紀には国民の四人に一人が高齢者という超高齢社会の到来が予測されているなかで、健康で生きがいを持ち、安心して暮らすことができる長寿社会を実現するための対策が急務となっております。

そこで、本市におきましては、本年三月、二十一世紀に向けての高齢者福祉のあり方を展望しました。「千葉市総合福祉計画」並びに、その実施計画となります「高齢者福祉推進計画」を策定し、「長寿を尊び、明るく活力に満ちた社会」の実現のため、全力をあげて取り組んでいるところであります。

一方、貴連合会におかれましては、長年の懸案でございました法人化が昨年十月に認可されました。これまでの皆様方のご苦勞・ご尽力に対しまして、改めて心から敬意を表するものでございます。名実ともに、社会的責任を有する公益法人として認められましたこと、誠に心強い限りで、皆様方には、これを契機に、受託事業の拡大や多方面にわたる生きがい事業の発掘、さらには地域に根ざした社会参加事業を充実させ、本市の高齢者福祉団体の中核として、さらに発展して参りますことをご期待申し上げます。

本市といたしましても、高齢者の方々が敬愛され、お一人おひとりが生涯にわたり健康で、心豊かな生活が送れますよう「明るく生きがいに満ちた健康福祉都市」の実現を目指し、各種の施策を積極的に展開して参る所存でございますので、どうか皆様方には今後とも長寿社会にふさわしい老人クラブづくりのため、さらには、本市福祉行政の推進に一層のご支援、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

市老連の来し方・行く末に寄せて

波多野 透



日脚も次第に短く感じられる今日この頃、会員の皆様の御健勝を心からお慶び申し上げます。

さて不肖過般、市老連結成以来の念願であった法人化（社団法人）の達成を機に市老連会長の重職を退任させて頂きましたが、市老連は私にとって老春そのものであり、お蔭で現在も悔いのない心境です。併し、長期にわたる在任中にはいく度か運営上難題に直面しましたが、市当局のご指導と会員各位のご協力で不束ながら重責を果たし得ましたことは、誠に有難く本誌上をかり深く感謝いたします。

想えばわが市老連は、終戦後老人福祉法が公布された前年、昭和三十七年五月結成され、会則は二年後の同三十九年七月に制定されました。その後会則の一部改正は再三行いましたが、昭和五十六年度に入りましたので、本会内に会則改正委員会を設置し改正案の作成に着手しました。委員会の精力的討議を経て改正案は、同年度の総会に上程決議されました。同改正案の主眼は、従来の行政指導型の市老連の運営、活動を会員と市老連の発想による自立性型への脱皮を図った点であります。時恰も昭和五十七年は市老連創立二十周年の節目の年で、この記念すべき年を契機に改正案を施行しました。次いで平成三年度に入るや、千葉市の「政令指定都市」移行が、略々、確実視される段階にまで進行したこと、他方市老連自体の法人化再燃の強い要望を背景に、同年度総会に法人化（財団法人）に関する議案を上程し可決さ

れました。併し、この財団法人の認可申請を具当局宛提出するための内部折衝で出捐金ほか一部条件をクリアーできず残念ながら財団法人としての法人化構想は見送りを余儀なくされました。

要するに、市老連の法人化は幾度となく挫折しましたが、二十一世紀に対処できる活力ある高齢者団体に飛躍するためには法人格の取得は不可欠条件であります。その後必要書類作成等の準備期間を経て平成七年八月、千葉県知事宛社団法人の設立許可申請書を提出し、同年十月一日付で申請どおり許可されました。今にして思えば、「社団法人」千葉市老連の誕生までの道程には紆余曲折があり長期にわたりましたが、その間、辛抱強く頑張って頂いた会員各位並に役員は固よりご指導下さった市当局他関係機関の方々の御懇情があったればこそその大願成就と受け止め、皆様方に対し改めて満腔の敬意と感謝の意を表します。

さてわが市老連の新しい門出に当たり心すべきことは、政令指定都市としてのわが市老連の躍進は、むしろこれからが正念場であることとを忘れないこととあります。今後、社会的信用を追風に公益法人として地域におけるクラブの健全育成に努め、会員一人ひとりが主体性をもって地域社会の一員として行動し、個人の自助努力と相まって社会的役割を果たすべきであります。

幸、わが千葉市は平成五年度既に高齢者保健福祉計画を樹立し、現在明るい二十一世紀を指向して着実に具体化されつつありますが、この早期実現は多くの高齢者にとって大きな夢と生きがいをもって迎えられるべきです。

要は市老連の法人化を契機に、心も新たに今後公益的性格を鮮明にし、社会的に信用される責任ある団体として福祉行政の施策に協力し、地域高齢者福祉の推進活動の一翼を担い、活性化に寄与することを念願いたします。

特集

活力ある長寿社会にむけて

充実したいいきとしい長寿社会にむけて、実践活動はどのようにすすめられているか。

六月埼玉県で開催した一都九県三政令市のリーダーを集めた関東ブロック研修会、七月を中心に実施した地区別研修会の夫々の事例発表とデスカッション——こうした積み重ねが会員と直結する単位クラブの活動にどのような形で反映されているのだろうか。

楽しいクラブづくりのなかで、生きがいをもつけ、健康づくりや仲間づくりにとりこんでいる仲間達の活動を特集した。

楽しくクラブづくりや社会参加

文化部のレポート

会員作品展

今年度の感想として、少し作品数が減ったかな、これは一部の人が諦めたか、次



の作品を考えて手控えたかと思われます。作品内容そのものは何時もに負けず立派な内容であったと考えます。

どうか会員の皆様、多くの人に見せるための価値ある作品を作られる様、自分に負けないで下さい。私は何回も見せて頂いて作者のお骨折りに深く尊敬と感謝の念を持ちました。

囲碁将棋大会

私自身、将棋も碁もまるつきしだめで、ただただお世話するだけのつたない身の上ですが、真剣にやっている仲間を見て、こういう楽しみ方もあるのだなと感心しました。(写真)この大会には女性が見当たらないのはやっぱり内容そのものが個人直接の戦いだからでしょう。将来男の頭の戦いから躰全体で勝負する様になればきっと女性の方が強くなるでしょう。

(文化部長 三浦一郎記)

関東ブロッック研修会

去る六月、埼玉県江南町の山紫水明の地に建ったホテルを会場にした表題の研修会は、21世紀プラン実現に向けて参加者一同熱心に、そして一堂に会した親しみを感じ乍ら、老人クラブの在り方を模索した人間学の場であった。



私は初めての参加であった故もあるかも知れないが、一都九県三市の各クラブ代表が一堂に会したその雰囲気、人生80年時代を心豊かに意義ある生き方をめざした21世紀へ向けて歩まんとするものの意気を感じ、連帯の輪の中の一人の自分を決して一人ではない自分の存在、つまりこれから年齢を迎えて生きる日々を共に手を携えて21世紀に向けて進む友情の輪の中の一人の自分を感じ大変うれしく思いました。

研修内容は「老人福祉の動向」「全老連報告」「講演・女性パワーをさらに生かすために」「介護劇」と分科会(一)～(四)でした。分科会テーマは「ねたきり0運動及び友愛活動」「生産活動の推進」「楽しい老人クラブづくりの工夫(安藤発表)」「実践発表・作品の展示」でした。

紙面の都合もありますのでこの研究会で私が一番に残った言葉を次に記します。

講演の中から
・老人クラブは地域の一人、地域の一人は日本の一人、日本の一人は世界の一人

人。老人クラブの一人は地球の一人に
つながっている。

・学校では学問を学び、老人クラブでは人間を学ぶ。老人クラブは人間の学びの場。皆で成長、皆で楽しむ。

全老連兼子総務部長のまとめより

・日本の全人口の36%を占める組織は老人クラブしかない。どうぞ誇りを持って欲しい。

・具体的な活動の中で自治体の援助、支えをひきつけるような実践の在り方。

・老人クラブの活動は高齢者の生活リズムと体力に合わせて無理をせず緊張らず、急がず、継続性を大切にしてすすめる。

全老連久力副会長の挨拶より

・老人クラブの理想の姿を常に夢に描き、老人が最後の最後まで自分の力をふんばって生きて行く姿勢、——リーダーの在り方。

研修会より帰宅後、あたたかい湯気とほのかな香りの立つ一杯の紅茶を飲みながら、昨日の私よりちょっと成長した私を感じる思いでした。

(千城地区女性部長 安藤幹記)

躍進する女性部の活動

市老連女性部

副部長 坂口英美子

一、市老連全体の活動に協力

市老連全体の活動に対して、市老連二十九地区女性部は全面的に協力して来たので、高い評価を頂く現在、女性の特性を發揮し惜しめない協力をしている。具体例を上げてみると、芸能大会を盛り上げるのは女性部である。日頃単位クラブ、地区で励んだ（歌・踊・ダンス・大正琴・コーラス・詩吟・民謡）成果が地区芸能大会で出場権を得た四十九チームが競演する。出演に合した着物を着て演ずる姿は実に美しい。他に町内の運動会に町内女性部四十数名が、区民祭りに区の女性部の百名が一堂に出演する場を頂き、女性部のパワーを外部にむけてアピール出来、サークル活動参加者が増加した。

二、女性部独自の活動

女性部は毎年三回自主研修会を催し、講師・発表者を決める。事前に二十九地区女性部の情報の交換を為し、会員増強十名以上のクラブから地域に合った手だて

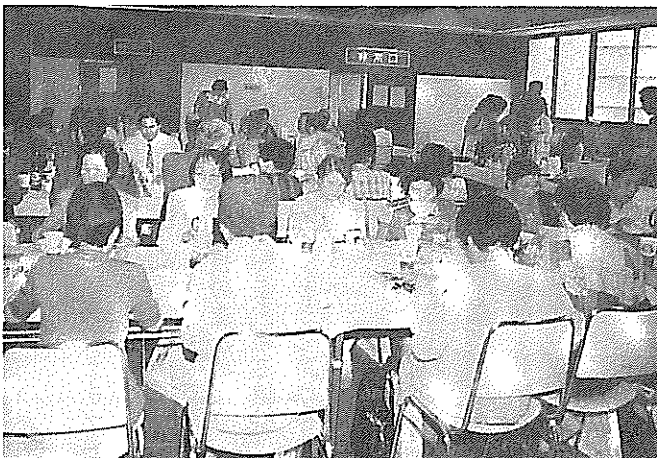


施設訪問

の発表、友愛活動を継続して実施しているクラブから活動の内容計画（特養ホームへのボランティア活動、洗濯物たたみ、話し相手、痴呆の人の食事の介添、独居老人への思いやり活動、朝毎安否を確認して、別居の家族に知らせる、頼まれれば洗濯・掃除・買物・食事作り何でもし上げるクラブ）など発表する。

三、女性部の躍進

女性部は研修会・施設見学・研修旅行、その他の機会で見聞を広め、知識を高め、



高洲「寿賀の会」（タフ高洲広報紙No.113より）

会員増強・友愛活動・サークル活動の多様化等の女性部重点目標に著しい躍進を遂げて来た。

良き指導者久力部長のもので実行して来たが、市老連会長様始め、単位クラブ会長様、事務局の皆様に至る多くの方々の御協力、御支援の賜と深く感謝申し上げます。

会員増強

花見川区老連

九月二十五日
幕張公民館

久力女性部長指導の下に各地区連会長および女性部長が、それぞれの地区の取組み状況を報告し、これに対し活発な論議が展開された。久力部長は、老クへの加入率について、千葉市20%、千葉県40%に近く、全国平均39%と、千葉市が如何に低いかと示され、奮起を促された。

ここで私は、稲毛区轟町の広居地区連会長の職住論を思いだした。私のところの老クいずみ会の地区は殆どが東京に勤先を持つサラリーマン世帯である。自治会の活動は活発だが、退職した会社人間は、安らぎの静さを求めて入会しない。そこで近く民生委員、自治会の婦人部と、老クの役員との懇談会をもって打開策を検討することになっている。ところが花見川団地の「みのり会（会長宮口みつ子）」では、この間の敬老会で三〇〇人出席、余興はよそから誰も借りず、みのり会の芸達者で全部仕切り、そのうえ会場の小学校の講堂に「ふれあいの店」を開いて

会員の手芸作品を売ったら大変喜ばれたという。又、その席で、「楽しく生きる長寿社会をめざして、地域の担い手として、張切って示そう、高齢者のパワーを」という見出しの会員増強の広報紙を配布し、ちなみに会員は必ず一つは入っているというサークル教室は十四もある。そして昨年四月六七名だった会員は現在九一名に増えたそうである。なお去る九月十八日に地区として行った「水上バス、ゆり

かもめで臨海副都心めぐり」の日帰り旅行ではバス二台八三名参加したが、そのうち四四名がみのり会で、そのなかには自治会長、足の不自由な会員のためボランティアで付添った五十代の女性が七、八名いたという。「むべなるかな」と私は舌をまき、「ローマは一日にしてならず」の名句が頭をよぎった次第である。
(花見川地区連会長 三矢金吾記)

楽しく生きる長寿社会をめざして

地域の担い手として
張り切って示そう
高齢者のパワーを！
今や「人生80年」長寿社会を迎え、長い生涯を充実した豊かなものにするに、第1に健康、第2に生きがいのある人生が最も重要となりました。私たちは老人クラブの活動を通じて、くいのない人生の総仕上げをかくとくしていききたいものと思います。

老人クラブってなんだろう？

同じような世代の人達が集って、親しみと思いやりを持って、自分の幸せと家族や地域の発展を考えながら前向きに取り組んでいる団体です。

老人クラブってどんなところ？

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. スポーツ、健康活動 | ●みのり会サークル教室● |
| 2. 社会奉仕活動 | ●講演会 ●さわやか森林浴 |
| 3. 教養活動 | ●コーラス ●フラワー |
| 4. 社会参加、友愛活動 | ●詩吟 ●手芸 |
| 5. 趣味の活動 | ●踊り ●ゲートボール |
| 6. レクリエーション活動 | ●レクダンス●グランドゴルフ |
| | ●大正琴 ●輪投げ |
| | ●ヨーガ ●囲碁・将棋(予定) |

花見川みのり会は
あなたをお待ちしております！

花見川みのり会・花見川住宅自治会



美浜地区老連

美浜区の場合、高洲地区を例にとり、申し上げると、八年度は七月十八日、稲浜公民館の集会室を借りて、十六クラブ四六名の単位クラブ会長、役員で研修会を行った。

当日、遠路わざわざお越し下された教養部の中沢部長様が終始応答に当たられ大変立派に価値ある研修会が出来たこと、有難く感謝している次第です。内容その他一般については部長よりつぶさに報告があったことと思しますので、ここに改めて申し上げます。ここでは、会長として当日の雰囲気的一端を申し上げますと、各クラブ共夫々の会員増強には一方ならず苦勞している様子が受け取れます。が総じて言えることは町にお年寄りはいるが進んで入会なさる方はいないということです。かといって今の会員が脱会なさる人もいない。これは一体何を意味しているのでしょうか。今の会員年齢の平均は七十歳を越えています。先ずこれ以上若い方は入ってこない。一体老人クラブという所は何をする所か？ ゲームボール、碁、将棋、茶話会、お互いに

健康の話し合い、たまにバス旅行で飲み喰いカラオケで年忘れの遊び、こんなクラブにはついていられないといった向きが伺われます。お年寄を幾つかに分けて先ずインテリ層、芸能人、財閥関係のお偉方等は絶対といていい程入って来ません。まだ働く意欲のある人、孤独を楽しむ輩、学者、医者、弁護士、政治家等何れもふり向きません。これを要するに全部を入会させる等は絶対駄目で、相互扶助の気持の強い人で話し合いを楽しむなら年齢の差等それ程感じません。これは今後の老人クラブ経営に一つの指針として考えるべきです。魅力ある老人クラブの第一義は健全娯楽で多角的に会員の面倒を見ることです。

従って会長一存でなく、あらゆる多方面の健全趣味娯楽を容認し、相互扶助の精神で、勿論男女の差別なく老後のTPOを楽しむ団体として成長させるべきでしょう。
(会長 三浦一郎記)

千城地区老連

人生八十年、九十年とも言われ本格的な高齢化社会を迎えた昨今、老人クラブの会員拡大が重要な課題になっています。

そこで七月十一日に千城地区研修会を開催し、会員増強について四クラブの事例をもとに協議し研修を深めました。

△事例▽

一、賛助会員制の導入

会の運営を円滑にし、また活発化を図るために六十歳未満の方を賛助会員とし、会への参加協力をお願いした。その主たる活動は、毎月の行事への参加、行事の案内などの配布、会費の集金などを兼ねた家庭訪問などです。この制度の導入に



より、会の運営がスムーズとなり、会に活気が出てきています。

二、サークル活動の活発化

各年代の会員を引きつけ、魅力のある会にすることが会員拡大につながると考え、ニーズに応じたサークル活動を展開しています。

その主なものは左記の通りです。

- ・スポーツ同好会（ゲートボール・グラウンドゴルフ・テニス・ラジオ体操などの実施）

- ・旅の会（年二回、各地の名勝旧跡を訪ねる日帰り旅行を実施）

- ・講演会（年二回、健康などについて専門家から話を聞く会）

- ・食事会（年二回、昼食を取りながら、会話やカラオケなどを楽しむ会）

- ・合唱団（月二回、懐かしい歌を歌いながら、心の健康を保つ会）

- ・地域との交流（地域の清掃や草取り、スポーツ大会などへの参加）

三、青年部の新設

若いときから入会して、社会活動を通じて、諸行事に積極的に参加、スポーツを通じて若い仲間の拡大を図り「歩こう会」「グラウンドゴルフ」等を実施、お花見の

行事では高齢者の方を青年部がリーダーとなって送迎も担当しています。

四、広報や家庭訪問などによるPR活動

誕生会、茶話会、カラオケ愛好会、映画鑑賞会などの行事の案内や年四回発行の広報を配布したり、家庭訪問を実施し、サークル活動での作品をお土産に持参したりして、会への参加を呼びかけています。

五、勧誘文の発送

該当者へ勧誘文を発送後、家庭を訪問し、定例会やサークル活動の見学を勧めています。また、民生委員との連携の強化を図っています。

○事例発表者 ・大宮台第三和楽会 楠

弥 ・悠友クラブ 安藤 幹 ・千城台ときわクラブ 駒野和吉 ・新和大樹

会 立野 明

六、クラブの事例発表後「老人クラブ」という名をめぐって賛否両論の意見が出されました。また老人とは思われたくないという六十歳代が会への参加に消極的である。

（会長 深山太一記）

穴川地区老連

こんどの研修テーマは「会員増強」に

統一されたものであるが、本地区連は老人クラブのメリット、デメリットという面から魅力のあるクラブづくりを考えてみようとした。

七月一日十時から正午までの二時間は急ぎ足の研修になってしまったが、各クラブ会長含む四一名が参加して開催した。

事例発表は、ゴールドとどろきの大藤会長が行ったが、前身である轟東延寿会の会長が病のため退任されたが後任が決らず解散ムードになったため、地区連会長として不省私が地域の指導者である大藤四丁目自治会長（15地区連協会会長）に協力を要請したところ、惜しめない努力と行動力をもって見事に再建を果し、32名から63名に会員を倍増させ、活発なクラブ活動を展開している。

事例の要旨はつぎのとおり

1、会の名称から「老人」の文字を抹消し、会名も轟東延寿会を「ゴールドとどろき」と改称し、イメージの転換を図った。

2、ヤングオールドの加入促進と併行して、50代は賛助会員として民生委員、ボランティアとともに、会の運営やお手伝いしてもらっているが、良い結果につな



がっている。

3、具体的な活動としては特に目新しいものでなく、高齢者中心の保健衛生教室、近辺の日帰旅行、グランドゴルフや同じ味のグループ活動などのほか、清掃などの環境美化の手助けなどである。

4、情報交換は自由なおしゃべりでやっている。また、理屈ばらずに楽しみと自由を基としている。

発表のあと事例発表者であるゴールドとどろき大藤会長を座長とし、デスカッ

ションを一時間余り行ったが、発言者も多く、特に

▼会員は高齢化しており、六十代の新入会員は例会等に出席しても、場違いの感じをもっている。

▼会の活動は一律的でなく、年代別とか、男女別とか幅ひろく考え、集まりやすい、また自由に話し合える場づくりが大切ではないか。

▼会員のニーズをつかむ努力——アンケートの形でも、別の方法でも、ともかく実行すべきだ。

等々であった。

(地区連会長 廣居量一記)

蘇我地区老連

去る六月十四日午前寒川地区老連の研修会に参加する機会を与えられたので、自分の勉強のためと考え喜んで参加した。

当日は、雨天であったが会場には定刻前から寒川地区の単位老人クラブの会長さんや役員の方々が数多く参加され、会場内は熱気に溢れていた。

老人クラブの会員は定年前それぞれの勤め先で充分なる研修を積まれた方々なので今更という気持ちがあったせいかな

川地区老連の皆様方の熱意と気魄には驚かされた。

今年の地区老連の研修統一テーマは「会員の増強対策について」で各単位クラブから日頃のテーマに対するご苦労話や取りかかっている課題について発表があった。発表された方々の話術もすばらしく、永年人生経験をされた方々だなあと感心させられた。

とかく研修会という堅い話や発表が多く会場内が静粛になるものだが、この研修会は和気藹々のうちに会が進められた。

発表されり話し合われた内容を列挙してみますと、

一、老人クラブの「老人」という文字に強い抵抗を感じ、老人という言葉をなるべく使わないようにしている。

一、民謡・詩吟・カラオケ・ダンスなどのサークル活動には多数参加してくるので、このような活動を多く取り入れている。

一、男の会員の参加をふやすため、時には少しの酒類を提供することにより、会がなごやかになり、より多くの親睦が図られた。

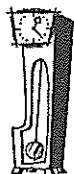
一、六十歳以上の方々の中には、この地区に老人クラブが結成されているのを知らない方がいるのでPR不足を痛感している。

一、年度当初、役員の方々が満六十歳以上の未加入者を訪問し勧誘に努めたら多くの方が加入して戴き大変嬉しかったです。会員の増強対策とひと口に言いますが、この課題は数年前からの単位クラブも苦慮していることで、一単位クラブだけで解決できる問題ではなく、行政や町内自治会等との協力を得てこの課題に対応していかねばならない大きな課題であると痛感した。

“入ってよかった、入ってみたい老人クラブ”

約二時間半の研修会が爽り多きものになり明日への目安になったことと、寒川地区老連の会長さんや役員の方々のご苦勞に感謝し、すがすがしい気持ちで会場を後にした。

(蘇我地区連会長 長谷川省悟記)



花見川区

六・二四花見川老人センターにおける事例発表要旨

私は警察官三十年、第二の人生で社員七年からようやく解放されて、昭和五十六年九月待望の悠々自適の生活に入りました。そして趣味の写真、木彫、書、詩吟などを約二年たっぶり堪能しました。その間木彫という趣味を通じて知りあい、生涯の友となった長谷川さんが会計をしている「鷹の台老人クラブ」に入会をすすめられ、それまで三十七年間東京で地域社会とは全くかわり合いを持たず会社人間で通した前半生を反省し、これからは地域社会の中で多少でもお役に立てばと考え、昭和五十八年入会しました。そしてその翌年副会長、翌々年六十年会長に就任し、以来今日まで十二年「光陰矢の如し」を痛感しております。私が会長になった時クラブ活動といえばゲートボールだけでしたが、それから輪投げ、ハイキング、詩吟、日本のうた同好会（コーラス）、写経とクラブ活動を拡げ、更にカラオケ、踊り、大正琴と大変活発になって、会員数も昭和四十四年発足の時は三十一名でしたが、創立二十周年の

昭和六十二年には六十二名と倍増していました。しかしその後は年々減少し平成二年一月には五十二名、その年齢別構成は八〇歳以上五、七〇歳以上三十九、六十六、七〇歳以上二十、六〇歳以上五と考令化がすすみ、歩調を合わせたようにクラブ活動も元気がなくなり、一番盛んだったゲートボールも潰滅状態になってしまいました。他のクラブもこのままでは早晚同じ運命を辿ることになります。そして昨年の柏井町のやよい会、今年と同じ柏井町の柏葉会のように、老人クラブの母体である自治会が存続しているのに老人クラブが潰滅するという不思議な現象が起こります。

鷹の台いずみ会起死回生の策 幸いにも、私たちの所属する鷹の台自治会には、子ども会、婦人部、青壮年部、高年部とあって、これらが中心となって、盆踊りとかバザーとか敬老会などの行事が行なわれ、日頃の交流も自然に行われております。いずみ会は、高年部の分身であり、高年部が老齢化すれば青壮年部、婦人部の高齢者が交代して引継ぐのが自然であり、柏井町の二つの老人クラブのように、

自治会が老人クラブの孤独死を見殺しにすることは無いと思います。

そこで今後どうやっていずみ会の再生を計るかについては丁度よい手本があります。若葉区千城地区連に悠友クラブという過去二回老クを解散し、平成五年十一月に新に設立し、現在会員七十六名を擁し、活発に活動しているクラブですが、関プロ研修会三分科会で発表された「楽しい老人クラブ作りの工夫」がそれです。(紙面の都合で掲載できません。資料は市老連事務局にありますので、ご請求下さい。) — 発表者 地区連会長 三矢金吾 —

こてはし地区

- 一、開催場所 横橋公民館
- 二、日 時 八年六月二十二日 九時～十二時まで
- 三、来 賓 教養部荒木七三造委員
- 四、参加者 こてはし地区連十四クラブ・代表一・クラブ四名標準出席者：会員五十六名
- 五、研修の進め方
和やかな雰囲気を作り発言者が気楽に話せるよう配慮しての座談会方式で進行を図った。

- 六、開会の言葉 桑原地区連副会長
- 七、会長あいさつ 長谷川会長
- 八、研修会進行係を紹介
- 九、来賓の荒木市老連教養部委員の御話
- 一〇、研修討議をはじめ
- 一一、こてはし地区連の実状に即した会員増強今後の活動展開について 長谷川会長の発言
- 一二、閉会の言葉 高橋副会長(座長) 解散、正午となる。

- △研修参加者全員座談会▽
- 座長 高橋孝雄副会長
 - 補佐 坂口英美子女性部長
 - (対談者) 蜂谷信義 桑原富一 稲田実
 - 西岡郁雄 高倉茂各会長
 - (意見発表・質問者)
 - 市村俊子 石井登志子 藤井
 - 房江 小島しげ 高倉俊子
 - 各部長

磯寿会に参加しませんか

磯寿会は磯辺一丁目と近辺に在住の60才以上の方の集まりです。

創立	昭和52年8月
会員	現在40名(男性10名、女性30名)
会費	毎月200円
例会	毎月第一日曜日 午後1時～3時

会場 磯辺自治会集会所

- ・誕生月の方へ誕生祝いのプレゼント
- ・会長よりの伝達事項
- ・会員と協議事項
- ・親睦

[会の活動]

社会参加
<ul style="list-style-type: none"> ・一円玉募金 ・古切手収拾 ・老人ホームの慰問 ・公園清掃(磯辺公園・児童公園、毎月第二、四日曜日)
たのしみ
<ul style="list-style-type: none"> ・新年会 ・春秋の旅行 ・芋掘り ・地域の各種行事に参加 ・運動会、輪投げ大会
グループ活動
<ul style="list-style-type: none"> ・踊り (土曜日) ・囲碁 (月、水、金曜日) ・手芸 (さくら会) (第三水曜日)

入会申込書 切り取り線 平成 年 月 日

住所 美浜区 電話番号 043- -

氏名

生年月日

(お電話下さい。279-7874。本頁、集めにお伺いいたします。)

老人クラブ運営指針

全国老人クラブ連合会

昭和48年4月24日（策定）

平成8年5月30日（改訂）

老人クラブ運営指針が23年ぶりに改訂されました。その背景は老人クラブの活動が大きく成長し、発展したことと、社会的、経済的条件の変化、特に近年高齢化がすすむなかで高齢者の団体として、その基盤である単位クラブの運営が充実した長寿社会づくりを左右するからに他ならない。活動の一助とされれば幸いです。（指針は要約しましたが、全文は各単位クラブにあります。）

1、老人クラブの目的と性格

1、老人クラブの目的

老人クラブとは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織として、①仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行うとともに、②その知識や経験を生かして、地域の諸団体と共同し、地域を豊かにする社会活動に取り組み、③明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的とする。

2、老人クラブの性格

- (1) 自主性、地域性、共同性
- (2) 総合的な活動、多様な活動形態
- (3) 各世代、男女が共同する民主的な運営

2、老人クラブの会員・組織

1、会員の資格

老人クラブは、入会を希望する高齢者で、おおむね六十歳以上の者を会員とする。また、常時活動に参加できない高齢者であっても、会員として迎え、支え合い、喜びを共にできる方法を考える。

なお、必要に応じて準会員や協力会員制度等を導入する。

2、組織の範囲と規模

(1) 組織の範囲

(2) 会員の規模

3、新規会員への呼びかけ

老人クラブは、絶えず新しい会員への呼びかけを行い、仲間を増やしてクラブの活力を維持するとともに、地域の高齢者の孤立や閉じこもり解消に努める。

3、老人クラブの運営

1、運営の原則

2、役員 の 構 成

役員は、高年会員と若手会員、男性会員と女性会員の均衡に配慮して構成し、その選出は民主的に行う。

3、会員の役割分担

活動分野ごとの担当者や幹事、係（例えば、健康委員、友愛活動リーダー、その他）等を設けて、できるだけ多くの会員が、役割を分担して活動推進に参画するようにする。

4、役員会、定例会の開催

5、活動計画、予算の作成

6、自主財源を主体とした運営

会員の会費によってまかなうことを基本とする。収入を伴う事業活動は、老人

高齢者に期待!

未来への文化の伝承を

民族研究家

安藤

操

クラブにふさわしい内容を選択して行う。補助金・助成金などの公費と寄付金等は趣旨を活かした活動に充当する。

4、老人クラブ活動のすすめ方

- 1、老人クラブ活動の全体像
- 2、活動推進の方法

(1) 均衡のとれた活動の展開

「生活を豊かにする楽しい活動」と「地域を豊かにする社会活動」の均衡をはかりながら、会員の希望を取り入れた活動を展開する。

(2) 高齢者の生活リズムに合わせた活動

老人クラブの活動は、高齢者の生活リズムと体力に合わせて、無理をせず、緊張らず、急がず、継続性を大切にしてすすめる。

(3) 全体の活動と小グループ活動の調和

老人クラブ活動は、会員の誰もが参加

する例会や誕生会、旅行、社会奉仕の日の活動などを基本として大切にす。

同時に、会員個々の活動欲求や趣味を

満たした、さまざまな活動分野別の小グループ活動、サークル活動を取り入れてすすめる。

(4) 老人クラブ相互の交流

(5) 会報の発行と老連機関紙の活用

老人クラブ活動の発展のためには、会報の発行が重要な意味をもつ。例会や集会に参加できなかった会員への活動の周知、会員全体への活動情報の提供、会員以外の関係者への老人クラブ活動の理解の促進などのために、簡単な手作りの会報で十分なので、定期的に発行する。

(6) 高齢者の立場からの提言・提案

(7) 安全への配慮

(8) 会員章の着用

5、老人クラブ連合会

- 1、老人クラブ連合会の構成
- 2、老人クラブ連合会の活動

老人クラブ連合会は、①地域内各老人クラブの連絡調整、共同活動の推進、活動の支援、リーダーの養成研修、②高齢者保健福祉に関する調査研究、提案、啓発、広報活動、③行政をはじめとする関係機関団体との連携、その他

3、老人クラブ連合会の運営及び事務局

(1) 運営

(2) 事務局

(3) 活動拠点施設

老人クラブ連合会は、その活動を活発に推進するため地域の高齢者が自由に使える活動拠点施設を確保する。

高齢化社会がやって来るといふ。何しろ世界一の長寿国になったのだから、それは当たり前である。そのことは喜ぶべきことである。介護保険制度だの、消費税の値上げだの、来たるべき高齢化社会への準備であるといふ。そしてどうした

ことか高齢者が増えることは、社会にとつてマイナス要因であるような風潮が、なきにしもあらずである。それでは、高齢者は肩身が狭いではないか。たしかに出生率の低下と結婚年齢の遅延化は由々しいことだが、そのことと長寿者の増加は全くもって、別のことなのである。この両者を関係づけているからであって、それはエコノミックアニマルの発想に他ならない。もっとも、一ころの企業戦士がリタイアする時期になっているので、後継世代への心配が秘められているのかも知れない。私は、ここ何年か、一年に二、三回は海外を旅しているのだが、わが国ほど恵まれた発展をして来た国はないのではないか。ただ残念なことは、どっしりした余裕がなくどこかせこましい。昨秋、長谷川文吉広報部長などと、北京、天津、上海を訪れたが、どこでも高齢者はダンスや健康体操に余念がない。医食同源の国では医者入らずの余暇の善用を心がけているのである。ひるがえって、わが国の病院のロビーは高齢者のサロンと化している。天津市高齢者体育協会長石堅氏は「天津と千葉で百歳以上の長寿者の競争をしよう」と提案され、松戸敏

雄友好協議会長と固い握手をされたのであった。さすがは天津市の長老である。青少年の国際交流活動にたずさわっている方にうかがったのだが、日本の青少年は、自分達だけで狭く固ってしまい、外国人となかなか融合できないそうである。これは島国に生まれ育った者の宿命ではあるが、それだけではあるまいと思われ。わが国の伝統文化の素晴らしさを青少年に伝える努力が不足していたために日本人としてのアイデンティティを培養できなかったことである。それは青少年達に自信とプライドを持たせることに欠けていたというところであろう。そのためには、高齢者が大きな力となるべきだが、現状では世代間の交流がひどくうすれている。過疎と過密に引きさかれてしまったわが国の社会構造をどうしたら克服できるか。農山漁村が若者にとって生活的に自立できる魅力のある場所とならない限り都市に出て行ってしまった者達が戻って来ることは、ほとんどあるまい。それでは、三世代同居の好ましい家庭は成立しないから祖父母から孫へと生活習慣や文化（昔話、わらべ唄、お手玉遊びなど）の伝承は、不可能となってしまう。都市

における高齢者による青少年への文化伝承を考えるならば、小中学校、子供会、公民館、コミュニティセンターなどに高齢者が積極的に出向ける体制を作る必要がある。それには、社会教育、学校教育活動に老人クラブが積極的にかかわる受け皿作りを先ず関係者が行うことである。私は小学校長の時には運動会の招待状を子供達一人一人に書かせて、それを学区の高齢者にとどけるようにして来た。そしてPTAの廃品回収等の収益で弁当を用意してもらった。大規模校でもそれは可能であった。また高齢者を先生にお迎えして「伝承あそび」の集會も催したりした。地域の高齢者と子供達の交流の第一歩はこういいうささやかなことから始める。ともすれば、高齢者も殻（から）に閉じこもり、異世代との交流を敬遠するきらいもあるが、それは我が国の未来にとって、決してプラスにはなるまい。若さは物理的な年齢ではない。しなやかな発想とたくましい行動力なのである。それを高齢者に期待したい。

△筆者紹介▽

八千代国際大学講師／ふるさと文化研究会会長
／千葉天津高齢者友好協議会副会長

追悼

福祉発展の至宝 翁会長を悼む

市老連副会長・全老連副会長 久力 スイ



翁 久次郎氏

全国老人クラブ
連合会会長

全老連 翁 久次郎会長が平成八年九月二日に永眠されました。ここにご冥福をお祈りし、ご報告申し上げます。

お風邪で声が出ない位に信じておりましただけに、四日お通夜、五日密葬のお電話は、余りにも驚きの悲しいお報せでした。

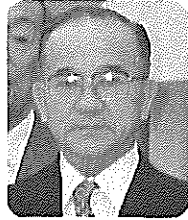
私共末輩にとりまして、翁会長にお目にかかることは数少ないのですが、温厚なお人柄の中にも、気骨あるご挨拶に接し、そのするどい識見の深さに感じ入って伺ったものです。

今回の九月五日練馬区江古田の斎場は、暑い日ざしの中、ぎっしりの人々で埋めつくされました。翁会長を忍ぶ友人、部下の代表の方の一言、一言に、お仲間からどんなに慕われておられたかを伺いな

がら、会長の人徳の深さに涙しました。

九月二十日 お別れする会

平成六年 勲一等瑞宝賞叙勲。厚生事務次官。内閣官房副長官五年の要職を退官。全国社会福祉協議会会長、中央共同募金会会長。日本児童手当協会会長。全国老人クラブ連合会会長。恩賜財団済生会理事長。
等の会による 翁 久次郎さんにお別れ



若葉区白井地区連会長
布施 章氏

布施 章氏を悼む

若葉区老連会長 菊池 力

若葉区の白井地区連合会会長としてご活躍頂いていた布施 章さんが七月二十八日に不慮の事故に遭われ、ご逝去され

する会が、新霞ヶ関 灘尾ホールで、会社、友人二十人の手で、温かく行なわれました。難問の山積みする福祉の業務を、敏腕を発揮、切開き、尽力をつくされた功績は、誰もが知るところです。橋本総理大臣を筆頭に、選ばれた極く限られた方々の短い時間での精いっぱいのお別れの言葉は、どれも親しみ深く胸をつきました。

福祉発展の至宝ともいうべき翁会長の力を噛みしめると共に、惜しんでも惜しみきれない翁会長の御霊にお別れ申し上げます。全老連をありがとうございました。

ました。

布施さんは暖かなお人柄の上にユーモアを解し、書道をよくし歌や踊りにもご堪能で、諸行事にはいつも率先参加し、地域の組織運営にたいへん力を尽くされ、大勢の仲間から敬愛される存在でありました。今更に、その突然のご逝去が惜しまれてなりません。

ここにご生前のご風貌とそのご功績をしのび、衷心から哀悼の意を捧げる次第であります。

事務局からのお知らせ

平成8年度前期の活動（4月1日～9月末日）

。4月9日(火) 全老連関東甲信越静ブロック会議（全社協ビル）。4月25日(休) 理事会、地区会長会議（市事業団ビル会議室）。5月15日(休) 臨時理事会（玉姫殿会議室）。5月15日(休) 新旧役員歓送迎会（玉姫殿）。5月17日(金) 全老連関東甲信越静ブロック会議（全社協ビル）。5月24日(金) 第2回通常総会（市文化センターホール）。5月30日(休) 全老連会議（全社協ビル）。6月3日～7月31日(休) 地区別研修会。6月4日(火)～6月6日(休) 全老連中央セミナー（全社協ビル）。6月10日(月) 特選演芸会（市民会館）。6月12日(休) 民謡講習会（ポートアリーナ）。6月17日(月) 理事会（市事業団ビル会議室）。6月19日(休)～6月21日(金) 全老連関東甲信越静ブロック会議（全社協ビル）。6月24日(月)～6月26日(休) 全老連事務局長会議（全社協ビル）。6月28日(金) ユニークダンス講習会（ポートアリーナ）。7月3日(火)～7月5日(金) 女性部研修旅行（奈良県、滋賀県）。7月9日(火) 理事会（市事業団ビル会議室）。7月22日(月) ゲートボール大会（ゆうゆう広場）。8月1日(休)～8月6日(火) 作品展（扇屋マリンピア）。8月9日(金) 理事会（市事業団ビル）。8月21日(休) 囲碁・将棋大会（市事業団ビル会議室）。8月27日(火) ユニークダンス講習会（ポートアリーナ）。9月3日(火) 民謡講習会（ポートアリーナ）。9月6日(金) グランドゴルフ大会（ゆうゆう広場）。8月12日(休) 理事会（市事業団ビル会議室）。9月20日(金) 社会奉仕の日（各地区）

後期（10月1日～3月末日）事業（行事）予定

。10月1日(火)～10月2日(休) 会長研修旅行（福島県）。10月7日(月) 理事会（市事業団ビル会議室）。10月16日(休)～10月17日(休) 全老連老人クラブ大会（島根県松江市）。10月31日(休)～11月1日(金) 全老連関東甲信越静ブロック連絡協議会（成田市）。11月1日(金) 輪投大会（千葉公園体育館）。11月6日(休) 理事会（市事業団ビル会議室）。11月9日(土)～11月12日(火) 全国健康福祉祭（ねんりんピック）（宮崎県）。11月19日(火) 指導者研修会（市民会館）。11月26日(火) 芸能大会（市民会館）。12月3日(火)～12月4日(休) 全老連会長会議（全社協ビル）。12月10日(火) 理事会（市事業団ビル会議室）。12月11日(金)～12月17日(土) 年末慰問（各クラブ）。平成9年1月9日(休) 理事会（市事業団ビル会議室）。1月17日(金) 会長新年会（京成ホテル）。2月6日(休)～2月10日(月) ふれあいの店（扇屋ジャスコマリンピア）。2月19日(休) 理事会（市事業団ビル会議室）。3月6日(休) 理事会（市事業団ビル会議室）。3月25日(休) 第3回通常総会（市文化センターホール）

(注) 全老連……………全国老人クラブ連合会
市事業団ビル………千葉市社会福祉事業団ビル
全社協ビル……………全国社会福祉協議会ビル

会員の ひろば

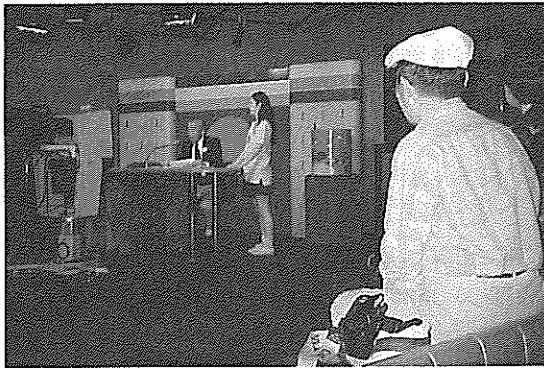
私の好きな老人会

高洲地区 佐治マサ子

早いもので老人会に入ってから十五年、多くの友達に恵まれて良かったと、私よりも子供達が喜んでくれています。地区連の女性部長としてはまだまだ未熟ですが、自分の出来る事で務めて参りたいと思っております。

高洲地区は団地住宅地ですので、会員増強活動のむずかしい所です。それよりもいかにして現会員数を現状のまま維持して行き、又老人会に入ってもいいなと想って頂けるようなものはないものかと考えています。コーラス、レクダンス、スポーツとありますが、春の地区

研修旅行として川越城本丸と蔵造り資料館を見まして帰りにはお菓子横町で味めぐりを楽しみました。車二台で八十名、皆さん子供の頃に帰ったように楽しい一日をすごしました。秋の社会見学としては、新都市交通ゆりかもめとNHKスタジオ見学も致しました。参加者一〇八名車三台となりました。予定時間より四十分ほど早く着きましたので特別に明治神宮参拝が出来ましたので皆さんに大変喜ばれました。十時にスタジオに入り、ここでも想いがけない体験がありました。まず三浦地区会長がニュー



スアナウンサーとして天気予報を読みまして、つぎに天気テレビ解説を女の方と言われテレビカメラマンに写された方が出まして色々トリック撮影もしてくれました。今年から運動会も各地での事です。美浜区の区民祭も近々行なわれます。幸町高洲地区には伝承あそびの活発なクラブがありますので、そのクラブが中心となって子供達に伝えて行きたいと思っています。又区の女性部は約七十名ほど若い方達の輪に加わり区民祭りの花になりたいとハリキッています。又市老連の芸能大会の準備で一生懸命です。これも自分達の健康の源になるような気が致します。これからも地域に合った活動をおせらずに明るく楽しみながら友愛の心を持って続けて行きたいと思っています。想いやりこそ人生だと思えます。

敬老会

土気地区 江沢 実

例年のことながら、どこの地域でも敬老の日には、それぞれの行事が催されると思う。

私の住んでいる土気地区でも去



る九月十四日、一日操り上げて第二十八回目の敬老会を土気あずみが丘プラザで実施された。あいにくと小雨の降る天候ではあったが、自治会長の温い計いで車による送迎の配慮をうけることが出来たので比較的参加者も多かった。

来賓の方々からは温かいご祝辞の数々を賜わり、誠に以って今の高齢者は、幸福であることを痛感した。

ご指名により私が招待者の代表として、お礼の言葉を述べることになったが、招待者の半数以上の方々は、老人クラブの会員ではあ

短歌

都賀の台シルヴァークラブ

平野 寿男

すこやかな顔の揃いて月一度政治
タブーの話がはづむ
癌に逝きし母のよはひをすでに越
え今年も胃検のバリウムを飲む

轟南延寿会 高橋 袖甫

友を想う

学友は今年も馬鈴薯おくりくる妻
御は病床にあると聴きしに
傍目にも羨む妻を病院に君はひと
りでこの芋掘りしか
顔は見ず電話の声はいくそたびき
きしぞ君の病める妻こは

ちとせ会 立石 まつ

われ八十路今尚元氣友の顔老人会
はなつかしきかな
われ八十路友皆元氣合ふ度に老人
会はなつかしきかな

ちとせ会 高野 智行

自然食健康食で身を守り手足伸ば
せば心も踊る

俳句

みつわ台寿会 桜沢 直

猫柳川の向うは蔵の町
呼ばれても返事ばかりや菊作り
端居して大正の唄口ぐさむ

都賀の台シルヴァークラブ

吉田 桂吉

菊鉢を洗い積みたる夏の月
太郎杉に星ひくく飛ぶ出水村

ちとせ会 高野 智行

木枯らしの日もまた楽し鍋料理
蝉の声ゲートボールに打ち消され

小仲台 狩野 喜美

菊三題

のきさきは色とりどりの菊日和
白菊のように生きよと母の声
一輪の菊に幸せかみしめる

寒川地区 小野 恒子

会長研修旅行

秋冷や霞ヶ城の少年碑
安達太良は千恵子の空よ秋桜
沼底に秋日透して五色なる

良夜

轟南延寿会 延子

アイロンは日課の一つ秋暑し
盗み飲むワインの味の良夜かな
嫌われて笹原隠れの彼岸花

凌 樹

白萩の月にこぼれし池しづか
池しづかや雲間がくれの萩の月
いとおしくしなびし手足秋深し

稲毛区 千種

彼岸花ふるさと丘に一人たち

川柳

稲毛区 千種

君の年齢聞きたくなるし話しすぎ

轟 素土呆

ばあさんとあと千回か晩ごはん

ちとせ会 高野 智行

死にたいは日々の戯言医者通い
明け暮れるゲートに呆れ持病さり



だが、未加入の方々も多数おられたので、先づお礼の言葉として、市老連が昨年十月に任意団体から責任をもった社団法人となり、以前に増して自らの健康づくりと、心豊かで前向きな高齢者社会の実現を目ざすと共に、いいささかも社会に貢献するため、長く培われて来た広い経験と智恵を活かして奉仕する活動に取り組んでいることや、老人クラブ会員の作品展の模様についての感想を述べ、更に種々の研修会などで先輩諸氏から受けた有益な言葉を引用させて載き、この後も益々健康に留意しながら、感謝の念と、友愛の心を以って生きて行く所存と深く御礼を申し上げた次第である。

午後からのアトラクションでは、特に我々老人クラブから、答礼の意味を含めて土気地区女性部会員による踊りと、ラストには土気地区各単位クラブ会長及び役員による「千葉市老人クラブの会歌」の合唱を以って、敬老会の最後の幕として載き、意義ある一日を送ることが出来た。

吾が人生のよろこびの一こまとして長く心に残るものであった。

編集後記

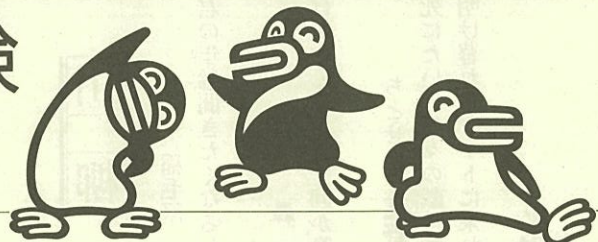
▼会誌第五号の発行にあたって、広報部会は実質的な法人化第一年であり、しかも新体制がスタートした年ということに視点をあてた会誌をつくることとしました。そのうえで発行部数を多くしよう、市老連の顔にふさわしい会誌をつくろう——こうしたさまざまな考えが新しい角度からの会誌見直し作業に連ったわけですが、幸い理事会や地区連会長さん方の全面的なご理解を頂きましたこと、冥利につきるものがありました▼七つのジャンル、テーマごとのご寄稿の依頼にあたっては、原稿〆切りまでの時間が短かく大変なご労苦をおかけしましたが、予期以上のご寄稿となり、編集委員はうれしい悲鳴をあげました。会誌への関心、ご期待の大きさを実感したところですよ▼ところで、原稿は全部のせるように——手直ししたり、削ったりしないように——誤字訂

正ぐらいい——こんなお手紙をいただきます。全く同感で、特に文芸作品では仮名づかいまで原文そのままが原則ですから、今更ながらのご忠告と受けとめておりますが、問題は限られた予算のなかで決められた頁建てと発行部数を確保するとなると物理的に不可能となりますので、予めテーマごとの寄稿件数と字数や写真添付の有無などをご提示し、取りまとめをお願いしたわけです。そのようなわけで編集委員会としては、出来るだけ多くの方の原稿をのせたり、あるいは次号に先送りするなどさせていたいただきました。ご寄稿された方々にはお詫びを申しあげて後記とします。(編集委員一同)

ちば市老連 第五号
平成八年十月一日発行
編集 広報部編集委員会
発行 社団法人
千葉市老人クラブ連合会
〒260 千葉市中央区中央一―三―一
千葉市社会福祉事業団ビル
☎ 〇四三(二二四)二〇五〇
印刷 有限会社 宮坂印刷
〒263 千葉市稲毛区轟町一―八―一六
☎ 〇四三(二五一)四五三七
FAX 〇四三(二五一)四五三五

老人クラブ保険

クラブ活動中のケガを補償する
会員のための保障制度です。



掛金と補償額

Aタイプ

掛金
年間1,000円

補償額	ケガによる死亡	100万円
	ケガによる後遺障害	最高100万円
	入院	1日につき(180日限度) 1,500円
	通院	1日につき(90日限度) 1,000円

※入院は、全治7日以上ケガのみ対象
●年間掛金500円のBタイプ(補償額Aタイプの半額)もあります。
●手術が必要な場合、付添人が必要な場合、上乗せして保険金が支払われます。

保険の特長

- ♡ 老人クラブ会員は、だれでも加入可能。年齢制限一切なし。
- ◇ いつ掛金を振り込んでも、翌月1日から保険は有効。

お問い合わせは



各都道府県・指定都市老連または全国老人クラブ連合会保険係まで
100 東京都千代田区霞が関3丁目5-1 霞が関IHビル1階 ☎03-3597-8770